

スーパーマーケット景気動向調査

2015年8月調査結果（7月実績）

（8月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

8月調査（7月実績）結果概況

景気判断 現状判断DIは小幅に上昇し51.5、一方で改善傾向には一服感

7月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+0.7の51.5、見通し判断前月から+1.3の49.8となり、わずかな改善となった。引き続き、現状判断は50を上回る水準を維持しているものの、見通し判断はわずかに50を下回った。

経営動向調査結果では、総じて前月からの変化は小さいものの、客単価DIが小幅に上昇したことが、売上高DIや収益DIの改善につながったとみられる。生鮮品や食品の仕入原価DIが高止まりしていることが客単価DIの上昇に寄与している。来客数DIは2ヵ月連続のマイナスとなった。

カテゴリー動向結果は上旬低く、中旬以降高くなった気温の影響や台風や豪雨などの影響を受けたカテゴリーが多い。また、地域によって異なる気候条件となったため、好不調の判断に地域によるばらつきがみられた。（個別のカテゴリー動向については最終ページに掲載）

景況感調査にも、前月から大きな変化はみられないものの、消費者購買意欲DIは、現状・見通し判断共に50を上回る水準となっており、依然として昨年12月以降の堅調なトレンドは維持されている。一方で6月以降は改善の勢いが弱くなっており、景気判断は踊り場にさしかかっているとも見ることができる。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）次月、7月下旬以降の記録的な猛暑を追い風に再び改善傾向をみせていくか動向を注視したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：51.5 (+0.7)
前月：50.8

消費者購買意欲DI
当月：52.8 (+1.3)
前月：51.5

周辺地域 競合状況DI
当月：44.9 (-0.7)
前月：45.6

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：50.2 (-0.4)
前月：50.6

見通し判断

景気判断DI
当月：49.8 (+1.3)
前月：48.5

消費者購買意欲DI
当月：51.9 (+2.0)
前月：49.9

周辺地域 競合状況DI
当月：42.7 (-1.4)
前月：44.1

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：49.9 (+0.4)
前月：49.5

経営動向調査

経営状況

売上高DI
当月：4.2 (+2.5)
前月：1.7

収益DI
当月：2.3 (+1.5)
前月：0.8

販売価格DI
当月：11.9 (-1.1)
前月：13.0

客単価DI
当月：11.0 (+2.6)
前月：8.4

来客数DI
当月：-4.8 (-0.8)
前月：-4.0

生鮮品仕入原価DI
当月：15.2 (-0.3)
前月：15.5

食品仕入原価DI
当月：15.1 (-1.3)
前月：16.4

カテゴリー動向

青果DI
当月：15.3 (-0.3)
前月：15.6

水産DI
当月：-1.6 (-1.5)
前月：-0.1

畜産DI
当月：8.9 (+2.5)
前月：6.8

惣菜DI
当月：9.1 (-0.2)
前月：9.3

日配DI
当月：2.0 (+2.2)
前月：-0.2

一般食品DI
当月：-3.5 (+0.4)
前月：-3.9

非食品DI
当月：-7.7 (+1.4)
前月：-9.1

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

8月調査（7月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

小幅に持ち直しを見せ、4ヵ月連続のプラス

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	5.1	24.4	32.3	35.0	3.2	1.7
売上高（当月）	4.7	18.9	33.5	40.6	2.4	4.2



2. 収益DI

小幅に持ち直しを見せ、4ヵ月連続のプラス

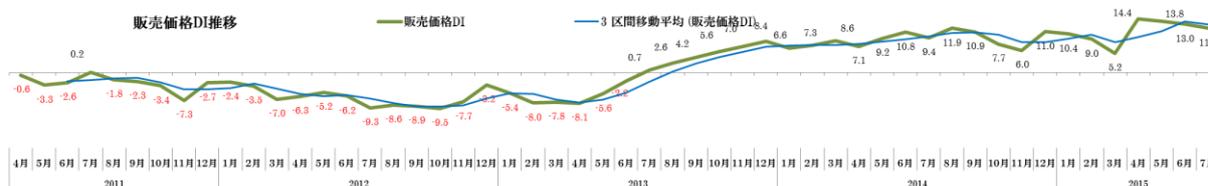
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	8.0	22.2	34.0	30.2	5.7	0.8
収益（当月）	5.8	21.8	33.5	35.0	3.9	2.3



3. 販売価格DI

やや落ち着きをみせるも高水準を維持し、24ヵ月連続のプラス

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	4.7	38.5	56.8	0.0	13.0
販売価格（当月）	0.0	5.2	42.4	51.9	0.5	11.9



4. 客単価DI

引き続き高い水準を維持するし、4ヵ月連続のプラス

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.0	14.8	37.0	47.7	0.5	8.4
客単価（当月）	0.0	11.0	34.9	53.1	1.0	11.0



5. 来客数 DI

前月からほぼ横ばいも2ヵ月連続のマイナス

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	4.7	34.9	33.5	25.6	1.4	-4.0
来客数 (当月)	6.2	33.0	34.9	25.4	0.5	-4.8



6. 生鮮仕入原価 DI

青果・畜産・水産の相場高により引き続き高水準を維持

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.9	4.7	30.3	59.2	4.7	15.5
生鮮仕入原価 (当月)	1.0	3.4	33.8	57.4	4.4	15.2



7. 食品仕入原価 DI

引き続き高水準を維持し、二桁のプラス

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.4	3.3	27.5	64.0	3.8	16.4
食品仕入原価 (当月)	1.4	3.4	31.9	59.9	3.4	15.1



II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状・見通し判断ともに小幅に改善も、見通し判断は2ヵ月連続で50を割り込む

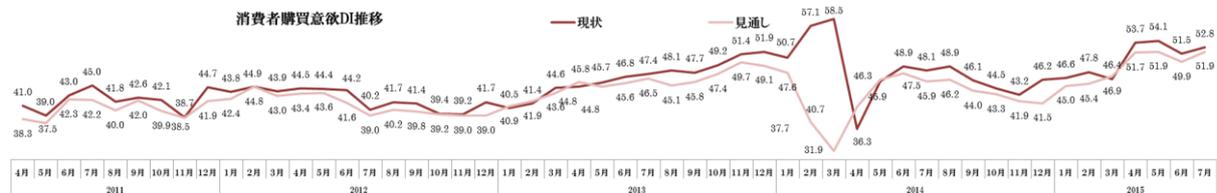
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.4	13.9	65.7	18.1	0.9	50.8
【現状】景気判断 (当月)	0.9	14.2	62.7	22.2	0.0	51.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	1.8	19.4	62.2	16.1	0.5	48.5
【見通し】景気判断 (当月)	1.4	16.9	62.9	18.8	0.0	49.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状・見通し判断ともに小幅に改善し、50を上回る水準

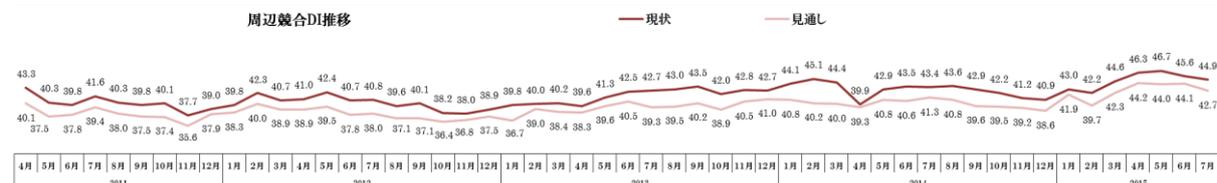
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.5	12.5	68.1	18.5	0.5	51.5
【現状】購買意欲 (当月)	0.5	9.0	69.8	20.3	0.5	52.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.5	13.8	71.9	13.4	0.5	49.9
【見通し】購買意欲 (当月)	0.5	8.5	74.2	16.9	0.0	51.9



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

大きな変化はなく横ばい傾向

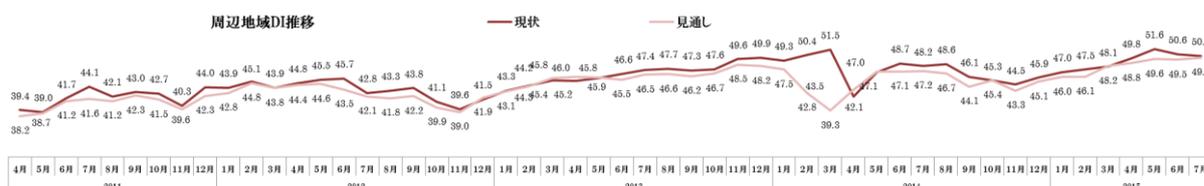
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	1.4	19.0	75.5	4.2	0.0	45.6
【現状】競合状況 (当月)	2.8	19.3	73.1	4.7	0.0	44.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	3.7	19.8	72.8	3.7	0.0	44.1
【見通し】競合状況 (当月)	5.2	22.5	69.0	2.8	0.5	42.7



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しともに前月の水準を維持

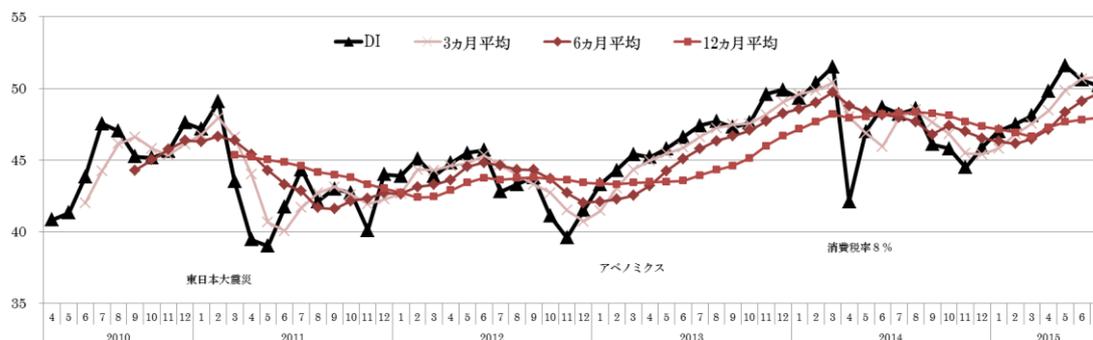
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	7.4	82.8	9.8	0.0	50.6
【現状】地域景気(当月)	0.0	8.0	83.0	9.0	0.0	50.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.0	10.6	80.6	8.8	0.0	49.5
【見通し】地域景気(当月)	0.0	9.4	81.7	8.9	0.0	49.9



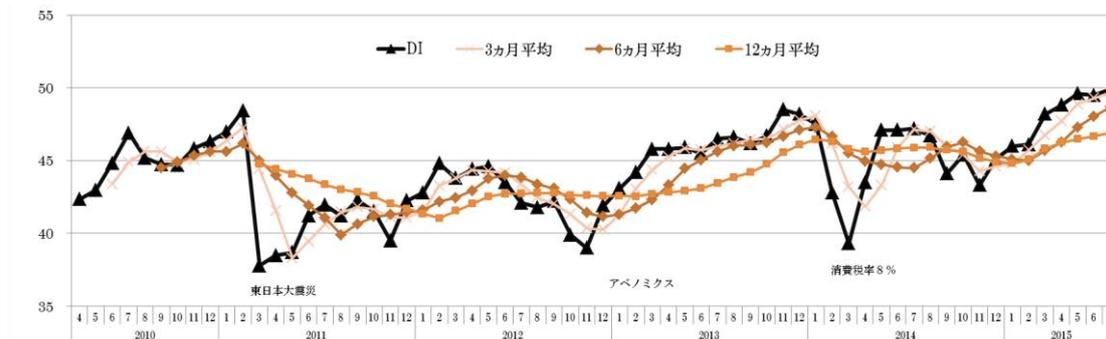
長期傾向 (2010年4月～)

2012年11月以降上昇を一本調子に続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け下落した。その後、5月に持ち直すものの、6月～8月まで横ばい推移、9月～11月では再び下落となった。消費税率引き上げ後、3ヵ月周期でトレンドが変化し、方向感の見えにくい状況であったが、12月以降は6ヵ月連続の改善となり、5月には、2010年の調査開始以降で最高水準にまで上昇をみせた。依然として各移動平均線はわずかなプラスでの推移を続けているが、6月と7月はやや上昇の勢いがなくなってきたおり、景気判断は踊り場にさしかかっていると思われる。

現状判断 (中長期傾向)



見通し判断 (中長期傾向)



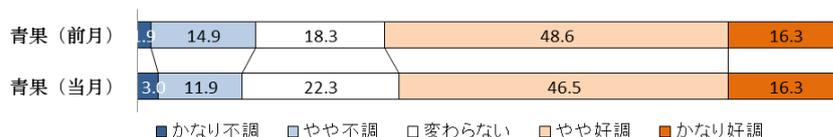
Ⅲ. カテゴリー別動向

カテゴリー別動向 DI による好不調判断

かなり好調：20 以上・好調：10～20・やや好調：0～10

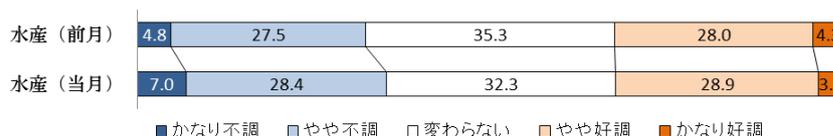
かなり不調：-20 以下・不調：-20～-10・やや不調：-10～0

1. 青果 DI：15.3（好調）



青果相場や果実が高値で推移した影響により好調となった。販売数量の減少を単価の上昇でカバーしている。サラダ関連、カット野菜が好調である。果実に関しては、好調とするコメントが多い一方で不調のコメントも散見されており、地域による天候により判断は分かれている。好調としてあげられている品目としては、季節果物やカットフルーツがあげられている。

2. 水産 DI：-1.6（やや不調）



国産相場安を追い風にした土用丑の日によるうなぎは総じて好調であったが、相場の高騰や魚種や入荷量の不足によりカテゴリー全体ではやや不調となった。その他ではかつおを好調にあげるコメントが散見された。

3. 畜産 DI：8.9（やや好調）



引き続き精肉相場が高い状況が続いておりやや好調となっている。前年好調であった牛肉については、引き続き焼肉需要などで好調とするコメントと前年からの反動により不調とするコメントにわかれた。豚肉については、高騰している国産に代わり輸入豚鶏肉の売り込みを強化し好調とのコメントが多くみられた。

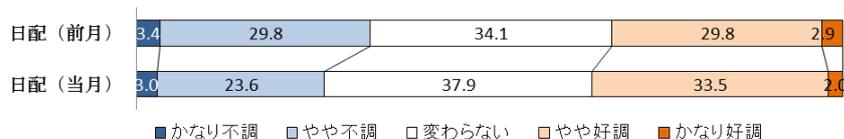
4. 惣菜 DI：9.1（やや好調）



土用丑の日のうなぎ関連、気温上昇に伴うフライや揚げ物が好調であり、カテゴリーではやや好調となった。夕方の品揃えやできたての提供などの取組みが成果をあげている一方で、人手不足の影響や気温や天候不順による影響を指摘するコメントが多く寄せられた。

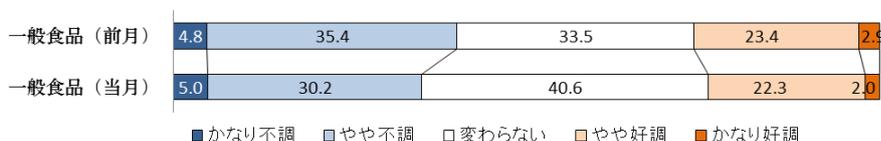
5. 日配DI：2.0（やや好調）

気温や天候に大きく影響を受けるカテゴリであり、地域の状況により好不調まちまちな結果となった。涼味関連では、上旬は気温が低く不調で、中旬以降の気温上昇とともに好調となった地域が多かった。価格が上昇した乳製品やパン類が不調とのコメントが散見されている。



6. 一般食品：-3.5（やや不調）

気温が上昇した地域では、涼味商材や飲料などが好調であったが、米相場安や昨年好調であった菓子カテゴリが不調となり、カテゴリ全体ではやや不調となった。前半の天候不良や気温低下を後半でカバーできなかったとのコメントも散見された。競合との価格競争の厳しさの指摘も目立った。



7. 非食品DI：-7.7（やや不調）

上旬の気温が低くなったことによる夏物商材の不振や他業態との競合の影響でカテゴリ全体ではやや不調となった。売場を縮小していることによる売上が減少となっているコメントも散見されている。



2015年8月調査（7月実績）キーワードTOP3

1. 天候要因（上旬気温低下、中旬以降上昇、雨天・台風）
2. プレミアム商品券
3. 生鮮品（特に青果）相場高

スーパーマーケット景気動向調査

7月実績速報版集計 213社

6月実績確報版集計 217社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp